**Oタカサゴサイシンの自生地その他(**前川文夫) Fumio Maekawa: Notes on Asarum epigynum Hayata

このカンアオイは台湾植物図譜 5:140 (1915) に産地をたゞ台湾として発表されたもので、その後大武山(正宗)の報告があるだけで、最近発行された Flora of Taiwan 2:577 (1976) にも標本は一つも引用されていない。昨年カンアオイ類を採集した台湾を訪問し、高雄県六亀附近を捜索したが得られなかった。今年もう一度 訪れて、今度は東海岸をタロコ峡からずっと南下するコースを辿り、結局、屏東県獅子郷寿卡附近ではじめて採集することができた。寿卡は東海岸大武から西海岸の楓港に越える峠道で、大体500mの峠である。峠の頂上から西側ではかなり湿っており、植生は豊かの方であったが2キロも進むともう乾燥していて植生はずっと貧弱になる。この 植生の豊かな部分の谷間に生えていた。ユウコクラン、フデボテンナンショウ、タイワンフタリシズカなどが見られたが、カンアオイとしてはもっとも高距の低い土地にはえるものといえる。

このカンアオイは和名をもとはウワミカンアオイといった。これは明らかに 学名 を 意訳したものであるが、全く誤訳でその 意味 を採り難いのでタカサゴサイシンと改名

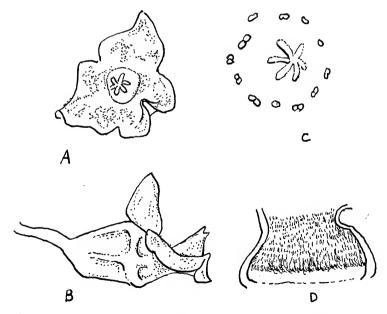


Fig. 1. Flowers of Asarum epigynum. A. Front view. B. Lateral view. C. Front view of stamina and stigmas. D. Innerside of calyx tube.

したものである。

東大にある相馬孟胤採集の標本がタイプであるが産地の記入がない。 緒方正資 VII 20,36 は葉1枚であるが、これも自生地が記してない。但しその株とつながる可能性の ある株が東大の温室に植えられていてそれを標本にした山崎敬 III 1,'65 (9492) が 2 枚あるがこれも産地がわからない。幸にこの牛品が現存しているので牛の状態で検する ことができた。今回標本を借用した台湾大学の標本を再検討して今まで不明であったも のの中から若干の標本を同定することができた。それによると、北は大武山から南はヒ ーラン山までの山地で、台湾では最も南部地方に分布する種であることがわかった。

国立台湾大学並びに今回訪問して標本を 検 定 することのできた台北林業試験場及び 進化生物学研究所にある標本の自生地は下記の通りである。

台東県タリリク社(佐々木舜一 II 10 '25 (041356), II 25 '25 (041345), 同所(林 試 30698-9))

台東県出水坡 (佐々木舜一 III 7,32 (041346), III 22 '32 (041349))

台東県追分-見晴シ (細川隆英 VIII 19 '32 (041319))

高雄県武威山(松田英二 XII 20 '18 (8780) (林試))

屏東県大武山(松田英二 I 4 '21 (8788) (林試))

- 獅子郷寿卡(前川文夫·湯浅浩史 III 13 '77 (進化研))
- 満州郷南仁山(恒春ヒーラン山)(佐々木舜一 III 27 '32 (041344, 041355)) 考えてみると今メキシコに居られる松田英二氏がすでに早く大武山と武 威山 とで採 集して居られるのにおどろくと共に深い敬意を払うものである。 なお今 回 採 集に当っ て種々御援助をえた何豊吉氏並びに瀬川弥太郎両氏に謝意を表する。

〇シロバナヨツバシオガマの学名訂正(堀井雄治郎) Yujiro HORII: Correction of the name for a form of Pedicularis

先に発表したシロバナヨツバシオガマの学名は、シロバナエゾノヨツバシオガマに同 じ epithet が既に用いられているので無効であるというご指摘を受けました。 不注意 をお詫びして次のとおり訂正します。

Pedicularis chamissonis Stev. var. japonica Maxim. forma leucantha Horii, nom. nov.

P. chamissonis var. japonica f. albiflora Horii in Journ. Jap. Bot. 52(2): 49 (1977); non P. chamissonis var. maximowiczii f. albiflora Tatewaki.

ご注意くださった原寛博士ならびにいろいろご指導いただいた 金井弘夫博士 に厚く 御礼申し上げます。 (秋田県立船川水産高等学校)